シンポジウム

周縁に追いやられた人々

主の慈しみ

主は言われる
「今こそ、心から私に立ち帰れ　断食し、泣き悲しんで。
衣を裂くのではなく　お前たちの心を引き裂け」
ヨエル書 2 章

日時：2025 年 9 月 23 日（火・秋分の日）13 時 30 分~17 時

場所：サクラファミリア 3F 大聖堂　大阪市北区豊崎 3-12-8

講師：岡 真理（おか まり）さん
早稲田大学文学学術院教授。専門は現代アラブ文学、パレスチナ問題。《パレスチナ》を現代世界に生きる人間の普遍的な思想課題として研究する。著書に『ガザとは何か』（大和書房）、『ガザに地下鉄が走る日』、『アラブ、祈りとしての文学』（以上みすず書房）ほか。

講師：中村一成（なかむら・いるそん）さん
ジャーナリスト。1969 年、大阪府寝屋川市生まれ。
毎日新聞記者を経て 2011 年からフリー。
在日朝鮮人や移住者、難民を取り巻く問題や、死刑が主なテーマ。
中東で パレスチナ難民との出会いも重ねている。
近著に、『今日に抗う』（三一書房）。他に『ウトロ ここで生き、ここで死ぬ』『ルポ 思想としての朝鮮籍』『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件』
など。

長年にわたりパレスチナ問題について研究をしてこられた岡真理さんに、シオニズムやナクバの日といったパレスチナ問題を、基本的な知識やその歴史的背景を踏まえてお話しいただき、ガザ侵攻、そして現在の状況について学び、考えたいと思います。
また新聞記者を経て、2011 年からフリーで活動されている中村一成さんに「ヘイトとの闘いが拓いてきた展望の数々、それらの闘争が過去最悪を更新しつづける『いま』の中で取り組まれ、煌めきを放ってきたことが少しでも伝わればと思う。（『今日に抗う』より）」と書かれているように、倫理の底が抜けた社会をより良い社会にするためには何をすればよいのか、共に考え、学びたいと思います。

主催：カトリック大阪高松教会管区部落差別人権活動センター

お問合せ・お申込み：カトリック大阪高松教会管区部落差別人権活動センター
☏075-223-3340 （月・火・木 10 時～17 時）
mail: :bukatu@kyoto.catholic.jp